



“命”をつなぐ “生きる”を支える
フードバンクぎふ

5/29 フードバンクぎふ総会2021開催

『NPO法人フードバンクぎふ』設立も決議しました！

総会では、コロナ禍で生活に困窮する深刻な地域の実態に、その役割がますます重要になっていることが報告されました。

これまでのセカンドハーベスト、東海COOP、フードバンク愛知、コストコなどに加えて、のあみ相談所などへも定期的に食品を受け取りに行くようになり、利用者さんへの支援が少し安定的につくようになりました。

また地元企業や農家さんのお米や野菜、麺類やお菓子など不定期ですが、品数や種類も増え、喜ばれています。

しかし、フードバンクぎふの事務所や倉庫、設備、水道光熱費や運送代などは、ほとんど個人の善意でまかなわれています。継続的な活動のためにも、財政基盤をしっかりさせていかなければなりません。そのため法人化を決議しました。



会場の宇留生地区センターには、広い会場いっぱい50名近くの方が参加。活発な意見が交わされました。合言葉、「命をつなぐ、生きるを支える」の横断幕も飾られました。

※食料支援が必要な方、お気軽にご相談ください。

2021年8月1日 No.4
発行：フードバンクぎふ
連絡先：大垣市荒尾町1490-3
☎ 0584-92-1400
090-3383-2301（赤星）
✉ foodbankgifu-jp@gmail.com

【振込口座】
△ゆうちょ銀行【店名】二四八
【口座番号】普通038466
【口座名義】フードバンクぎふ
△大垣共立銀行 荒尾出張所
【口座番号】普通181226
【口座名義】赤星守雄



大垣共立銀行と連携協定締結



この日、OKB 社会貢献部が社内に呼びかけて集めた食品約2400点と寄付金444,200円がフードバンクぎふに贈呈されました。

今後、OKB そうだん広場荒尾、藤江支店、笠松支店には専用箱とポスターがおかれ、地域からの支援物資を集め、寄付していただきます。



学生さん がんばって！

7月14日（水）、大垣市内の岐阜協立大学前で、「もうお腹すいてアカン！食料無料配布します」を行いました。

事前にまわりのアパートにチラシを入れると、「学生ではないのですが、生活が大変で・・・。もらえますか？」と電話が。大変なのは学生さんだけではないと実感。

当日は、チラシを見たり、ゼミの先生から聞いたという40人以上があらかじめ袋につめた20品と、お米や企業から寄付されたカルビスウォーター、ハイチュウ、大垣共立銀行からいただいたカップ麺やレトルト食品、玉ねぎなども次々と袋に入っていました。遠くネパールからの留学生も連れだって訪れ、とても助かりますと喜ばれました。



おしゃせ

.....会場&オンライン開催

サポーター学習会&交流会

8月29日（日）10～12時 大垣市宇留生地区センター

①ひとり親や子どもの貧困に関する施策について

上野学さん（岐阜県健康福祉部子ども家庭課）

②困ったときの生活保護 岡崎勝彦さん（海津市社会福祉協議会）

小池直人さん（元名古屋市職員）

➡ 申込先 090-9939-2447（稻垣まで）どなたでも参加できます。

オンライン参加希望の方は sugittya@dream.com にメールでお申し込み下さい。

【最近の主な食品提供先】 ありがとうございました♪

大垣共立銀行・森永製菓・岐阜産研工業・カルビー・中日本氷糖・のあみ相談所・フードバンク愛知・ナブテスコリンク・セカンドハーベスト名古屋・コストコ羽島店・大光・東海コーポ（冷蔵食品）・コーポぎふ西濃支所（乾物）・各務ヶ原と大垣イオンわくわく広場（野菜）・ミスペディさんのワッフル、個人の方からラーメンとチャーシュー、季節の果物や野菜。現金の寄付は、支援物資の郵送代、食品引き取りや配達の運送費（ガソリン代など）、精米代、食品保存用冷蔵・冷凍庫の電気代などに充てさせていただきました。

●フードバンクぎふに、「わた菓子製造機」の寄付がありました。貸し出ししていますので、どんどん活用してください。

大垣市西地区で行われた「和っとひろばみんなでつくるプレイパーク」では、子どもたちに大人気。かわいい笑顔がたくさん見られました。

フードバンクぎふは、地域の子ども食堂さんへも食品提供をしています。



編集後記

最近、本部では、他県から働く場所を求めてやってこられる派遣労働者の方からのSOSがいくつありました。その多くが職場を点々としていて、お金だけでなく、身の回りのものを持っています。そのため、支援は食料だけでなく、洗剤、ティッシュ、タオルなどの日用品を手渡すこともありました。派遣で仕事をしている方は、社宅付きの会社に入ることが多く、派遣切りにあれば住居も失い、次の職場はどこになるかわからず、荷物も処分しなければなりません。そのため身一つで移動することになるようです。日本では、今、非正規雇用は40%を超えています。社会的孤立は、こうした働き方の変化も関係しているのかもしれません。（船）